

之あま通信

No.6 2015年3月1日

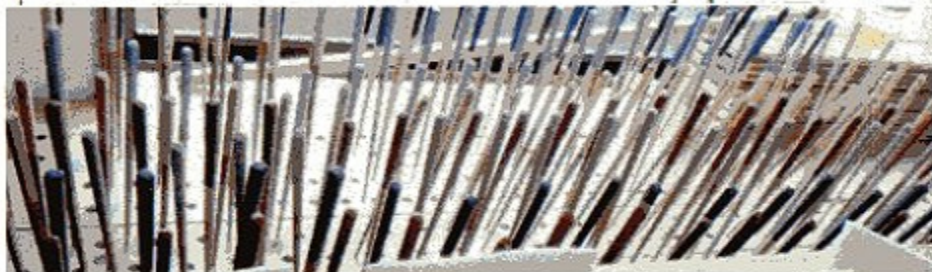
発行 著之あま 林まきみ

学生の頃は絵の勉強をしていました。
20才の時、ある理由で絵具を捨て、絵を描くことをやめました。しかし、20年後、同じ理由で自然塗料という絵具を手に入れ、それが「之あま」の始まりとなりました。
之あま 著は思いか込められた、僕の絵です。

魅力的な理念に

国産材、国内生産、再生可能な植物素材、安心安全、丁寧な手仕事——これこそ、著之あま、竹かたて工房の大切にしていることです。
時々、「どうしてドイツ製の自然塗料なのですか。どうして国産の塗料を使わないのですか」とご質問をいただきます。

日本製の塗料を探し、調べ、試してみました。その結果、日本のものはドイツ製品を手本に作られたものや、塗料としての性能も之あま 著に合うものを見付けることが出来ませんでした。その点、ドイツのものにはそれぞれに理念があり、それぞれに個性



★ 之あま展 4/20~27 セイテン(静岡・掛川) TEL 0537-23-2414

的で魅力がありました。その中から之あまに合う塗料を選択しました。そのX-Caseの2013年カクテルには、こんなふうに書かれています。

—— 著は手置が理想? ——

<食品と同レベルの安全性>

使われている植物油、植物ワックスや顔料は食品等に使用されているものと同レベルの安全性があります。(中略)

使われている植物油は、たいへん小さな分子で出来ているので木に深く浸透し、木を内側から保護します。(以下略)

ドイツの精神、理念、性能をドイツ製自然塗料と使用しています。(＃01、＃05、＃06シリーズに使用)

不思議な縁。九州・別府の著がなぜ、北海道・夕張で?

● 昨年、之あま 著と扱っていたドイツの夕張のギョウリー-teto(テトテ)のくまかいさんは、本来は九州の作家で、子育てのため制作はお休みして、自宅のギョウリーに居られました。

くまかいさんは、札幌にある器と雑貨ASAさんで著を購入し、気に入っていたことが取り扱ったこと、おかげでこうなりました。

● ASAの店主、塚野さんのアゲを拝見していると、とても熱心な方だなということが伝わってきました。熱心な方に扱っていただくことは光栄でありかたじけなく感じました。

塚野さんに之あまを紹介していただいた方は、陶芸作家の武者さんです。武者千鶴子さんとくまかいさん、器と雑貨ASAさんでセレクトのあ

み店だと話していました。

武者さんは気持ちのいい染付けの食器を作る人です。出会いは10年以上前、「急須に竹の手を付けて谷のいい」と北海道の伊達から電話が掛かってきました。
僕は急須に手を付けた経験はありません。花籠の制作はしていましたけれど、—— それで武者さんの急須に手を付けることにしました。作家の作品に手を付ける経験は初めて出来ませんでした。

材にASAさん

● そのころ彼世に僕を紹介した人物がいます。網走に住む大島さんです。20年以上前の数年間、別府に竹かたての勉強に来ました。別府でもたいへんお世話になりました。大島さんが北海道へ帰り、初めに住んだのはテトテさんと同じ夕張でした。

● 夕張のテトテさんの方、著のご注文をいただいた夕張に住んでいた大島さん、思い出し、人のつながりによって仕事をいただくという不思議な縁を感じています。
みなさんありがとうございます。

器と雑貨 asa
<http://utsuwa-asallf.jugem.jp/>
ギャラリー テトテト
<http://gallery-tetoteto.lblog.jp/>

